


高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL 型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
【知識・技能】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が関心のある社会的課題の内容について、自分の言葉で説明することができる</li> <li>社会的課題に取り組んでいる団体、組織を訪れてフィールドスタディを実施することができる</li> </ul>	
【思考力・判断力・表現力】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が関心のある社会的課題について他者に自らの意見を伝える事ができる</li> <li>自分が関心のある社会的課題について調べ、その解決方法を考案することができる</li> </ul>	
【学びに向かう力・人間性】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性をもって、粘り強く学習課題に取り組もうとしている。</li> <li>社会課題を自分事とし、社会に参画・貢献する姿勢を持とうとしている。</li> </ul>	
下位学習目標	
【知識・技能】	
<ol style="list-style-type: none"> <li>自分が関心のある社会課題の内容について、自分の言葉で説明することができる</li> <li>社会課題に取り組んでいる団体や組織を訪れてフィールドワークを実施することができる</li> <li>データや資料を適切に使って、効果的なプレゼンテーションを行うことができる</li> </ol>	
【思考力・判断力・表現力】	
<ol style="list-style-type: none"> <li>自分が関心のある社会課題について、他者に自らの意見を伝えることができる</li> <li>自分が関心のある社会課題について調べ、その解決方法を提示することができる</li> </ol>	
【学びに向かう力・人間性】	
<ol style="list-style-type: none"> <li>数ある社会的課題の中から、自分自身がより理解を深め、課題解決をしたいと思うことができるものをみつけようとしている</li> <li>社会課題と向き合う中で、その課題を学ぶことが自分自身の人生においてどのような意味を持つのか関連付けようとしている</li> <li>社会的課題に向き合う中で、社会的・文化的・歴史的な構造と人為との関係について考察しようとしている</li> </ol>	

授業日	6/5(水)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 7 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ・社会課題2に対する多様な主張とその根拠を整理することができる。		
時間 授業内容	0	復習 前回授業「関西学院でミスコンを行うことについてどう思うか」に対するフィードバック	
	1 0	導入 『家族旅行で子どもに学校を休ませるのはアリ？ナシ？』 <a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/2565e97c3fb3f7c5282245059af830b5ed94c911?page=1">https://news.yahoo.co.jp/articles/2565e97c3fb3f7c5282245059af830b5ed94c911?page=1</a>  資料① 朝日新聞 DIGITAL (2023 年 8 月 9 日) 「愛知で始まる『ラーケーション』に歓迎と懸念」 <a href="https://digital.asahi.com/articles/ASR8872H0R7MOIPE00C.html">https://digital.asahi.com/articles/ASR8872H0R7MOIPE00C.html</a>	
	2 0	問い立て① 資料①を読んで問いを立て、問いの規模で並び替える  講義① 3つの論題「事実課題」「価値論題」「政策論題」の紹介	
	4 0	Group Work① 問い立て①で作った問いを、3つ論題に分類   左図はロイロの共有ノートで、問い立て①で作成した問いを3つの論題に分類している様子。「事実課題」「価値論題」「政策論題」の違いを意識しながら、問いを分類している。論題によって、探究の手法が異なることも理解している。	
	5 0	資料② いこーよ総研 (2023 年 5 月 8 日) 『「ラーケーション」の認知は2割強と低めな一方、創設を望む声は高い』 <a href="https://research.iko-yo.net/report/8961.html">https://research.iko-yo.net/report/8961.html</a> (2023 年 9 月 17 日最終閲覧)  名古屋テレビ (2023 年 9 月 5 日) 『愛知県の子どもの“休み方改革”「ラーケーション」で「保護者と一緒に過ごそう」名古屋市は導入見送り』 ( <a href="https://www.nagoyatv.com/news/?id=020595">https://www.nagoyatv.com/news/?id=020595</a> ) (2023 年 9 月 17 日最終閲覧)	
		Group Work② 対話型論証モデルを班で協力して作成する ・ 班で協力し、兵庫県でラーケーションを導入することが適切であるとする立場の三角ロジックと、適切でないとする立場の三角ロジックを記入	
評価方法	①「事実論題」「価値論題」「政策論題」の違いを理解し、問いを分類できる。 ②意見と事実の違いを理解し、ラーケーション導入賛成の立場と、導入反対の立場の三角ロジックを作成することができる。		
宿題指示	ラーケーションを導入することが適切であるとする立場の三角ロジックと、適切でないとする立場の三角ロジックを完成させる		